



ふじだな



No.31

令和7年11月27日
大阪市立野田小学校
校長 川辺 智久

「ラケットベースボール」(4年生 体育科の学習より)

「校長室だより」22号でお伝えしましたように、本校では、今年度より「新しい時代を生きる子どもに必要な資質・能力の育成～2030年学習指導要領に向けての基礎研究～」をテーマとし、実践研究に取り組んでいます。

10月30日には今年度3回目の「授業研究会」として、全教員で4年生の体育科「ラケットベースボール」の授業を参観し、より効果的な指導・支援を行うためにはどのような工夫ができるのか討議したり、授業改善に向けて外部講師の先生に助言をいただいたりしました。

4年担当グループが取り組んでいる研究テーマは、「協働的な学び」。つまり、子どもが互いに協力・対話したり、多様な他者と課題解決を行ったりする学習活動のことです。このテーマは、4年生担当者たちが「他者を受け入れ、安心してすごすことができる学級の環境をつくり、学習が得意であっても苦手であっても楽しみながら共に学ぶことができる子どもを育てたい」という思いで選定しました。



「ベースボール型」ゲームの学習は、ティーボールやキックベースボールなどいろいろな種目で授業が行われていますが、今回、ボールを打つことに不慣れな子どもたちもゲームを楽しめるよう、バットの代わりに打つ面積が広いラケットを使って学習を行いました。

基本のルールは次の通りとしました。

- 打者は、同じチームのメンバーが近くから投げたボールを、ラケットを使って打ち、三角ベースを回る。
- 守備は、ボールをとったら近くのサークル（「アウトゾーン」）まで運んで、守備全員で1列に並んでわる。
- 守備が並んでわったら、打者はそれ以上進塁することができない。
- 打者が1つのベースを回りごとに1点が入る。



通常のベースボールと違うため、自分たちで考えて工夫することで、自分たちだけのオリジナルの「ベースボール型」ゲームを作り出すことができます。また、チームの一人一人が参加でき、攻撃側でも守備側でも作戦の話し合いができるため、「協働して学ぶ」姿勢の育ちが期待できます。

研究授業では、初めて他チームとの試合を行いました。

(※裏面に続く)

(※表面より)

この時間のめあては「自分のチームに合った作戦を考えて、ゲームを楽しもう」。初めての試合でしたが、子どもたちは声をかけ合い、チームで作戦を考えながら協力してゲームを進めていました。また、みんなが試合を楽しむことができるようルールやマナーを意識しながら試合をしていました。試合後は、チームのメンバーが集まって、試合をふり返り、自分たちが考えた作戦でうまくいった部分やうまくいかなかった部分について話し合ったり、自分のチームや相手チームのよかった動きを出し合ったりしていました。どの子どもも「勝った」「負けた」にこだわらず、どのようにすればもっと協力して試合を楽しめるか考えていました。

この授業の後も、子どもたちは試合を重ねるたびに、より楽しく充実した試合にするために知恵を出し合いました。



【子どもたち全員で考え、工夫したルール】

- ・ファールが5回になら次回の打者と交代する。
- ・投手は基本正面からボールを投げるが、打つのが苦手な打者には横からのトスでボールを打ってよい。など

【各チームで考え、工夫した作戦】

(攻撃側)

- ・ボールの打ち分けをすることで相手が予測しにくいボールを打つ

(守備側)

- ・足の速い人が後方を守備することで、素早くアウトゾーンに行けるようにする

- ・走ることが苦手な人は、守備位置をアウトゾーンの近くにすることで、素早くアウトを取ることができるようになる。など

ラケットベースボールの学習全体を通して子どもたちにどんな成長が見られたか、担任に聞いてみると、「以前よりも周りの友だちへの明るい声かけが増えた」「これまであまりコミュニケーションをとっていなかった子ども同士が会話をしている様子が見られるようになった」「他の授業でも準備がすばやくできるようになった」「授業と休み時間との切り替えが早くなつた」と話していました。ラケットベースボールの学習を通して、体育科の学習だけでなく、子どもたちの学校生活にもよい効果が表れた、ということですね。学習指導要領の体育科の目標は、「運動や健康に関する資質・能力を育成することを通して、生涯にわたって健康・安全で、明るく豊かな生活を営もうとする態度を育てること」とあります。つまり、体育科の学習では、「運動ができるようになること」だけを目的とせず、「健康・安全」「明るく豊かな生活」につなげていくことが大切、ということです。先ほどの、ラケットベースボールの学習を通して見られた子どもたちの成長は、まさに学習指導要領の体育科のねらいに合致している、と言えます。

「協働的な学び」のねらいは、いろいろな意見を出し合うことで、学びを深めたり、新しい考え方を生み出したりすることです。そして、いろいろな人と関わり、知恵を出し合ったり、協力しあったりすることで、互いを認めて尊重し合える人間関係を育んでいくこともめざしています。このような意味で、体育科の「ベースボール型」ゲームの学習は、協働的な学びを進める上でとても有効だと言えます。



本校では、今後もさまざまな教科の学習を通して「ともに学ぶこと」を大切にしながら、将来の社会で必要な力を育んでいきたいと考えています。

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。